

もえび

平成21年度
土地改良事業地区
営農推進優良事例表彰

全国表彰

農村振興局長賞の受賞が決定！
岩木川左岸地区『森田大豆生産組合』

平成21年度土地改良事業地区営農推進優良事例表彰（全国表彰）の「受益農家集団の部」において、国営かんがい排水事業「岩木川左岸地区」（青森県つがる市）の『森田大豆生産組合』の農村振興局長賞受賞が決まりました。

『森田大豆生産組合』は、排水施設の整備により、湿害が大幅に回避されたことから、「産地として顔の見える売れる大豆づくり」を目指して、森田地区の大豆生産に取り組んでいます。本組合は、20戸の農家で経営を行い、機械・施設の共同利用による効率的な作業運営を行うほか、排水条件の改善等により、収量・品質の向上を図っています。



コンバインによる大豆収穫

また、20～30代の若手農業者等をオペレーターとして雇用し、地域の担い手や農業後継者の育成にも取り組んでいます。

本組合は、森田地区の大豆生産を全て担う組織として地域の信頼も厚く、生産調整の重要な受け皿となっており、今後、益々の活躍が期待されています。

なお、同表彰式は平成22年3月26日、東京都千代田区平河町の砂防会館において行われることとなっております。



地域の若手農業者、担い手をオペレーターとして雇用

屑大豆の有効活用
水田へ有機質肥料
（屑大豆）施用
（50kg/10a）



食料自給率の向上に向けて

平成23年度からの戸別所得補償制度の本格実施に向けて、戸別所得補償モデル対策が平成22年4月からスタートします。

戸別所得補償制度は、食料自給率の向上を図るとともに、農業と地域を再生させ、農山漁村に暮らす人々が将来に向けて明るい展望を持って生きていける環境をつくり上げていくことを目的としています。

水田農家の皆さん、戸別所得補償モデル対策に加入し、食料自給率の向上を図りましょう。

戸別所得補償モデル対策のねらい

自給率向上のポイントとなる麦・大豆・米粉用米・飼料用米などについて、シンプルで分かりやすい助成体系の下に生産拡大を促す対策と、水田農業の経営安定を図るために、恒常的に赤字に陥っている米に対して補てんする対策をセットで行います。

自給率向上事業（水田利活用自給力向上事業）

自給率向上のために水田で麦・大豆・米粉用米・飼料用米などを生産する販売農家・集落営農の皆さんに、主食用米と同等の所得を確保できる水準の支援を行います。

◆交付単価（全国一律）

| 作物 | 単価（10アール当たり） |
|------------------------------------|--------------|
| 麦、大豆、飼料作物 | 3.5万円 |
| 〔水田経営所得安定対策の単価（全国平均）〕 | 小麦（田） 4.0万円 |
| | 大豆（田） 2.7万円 |
| 新規需要米 （米粉用・飼料用・バイオ燃料用米、WCS用稲） | 8.0万円 |
| そば、なたね、加工用米 | 2.0万円 |
| その他作物（都道府県単位で単価を設定します） | 1.0万円 |
| 二毛作助成 （主食用米と戦略作物又は戦略作物同士の組み合わせ） | 1.5万円 |

※戦略作物：麦、大豆、飼料作物、米粉用・飼料用・バイオ燃料用米、WCS用稲、そば、なたね、加工用米

◆激変緩和措置

交付金単価がこれまでの対策に比べて減少する地域において継続して作物を生産できるよう交付単価の調整を行います。

- 「その他作物」の単価や激変緩和措置に伴う単価は、県もしくは県協議会にお問い合わせ下さい。
- 「捨て作り」には交付されません。収穫や出荷を行うことが必要です。
- 水田経営所得安定対策の固定払の交付を受けている農家が、今年から新たに新規需要米を生産し、助成を受けようとする場合は、麦・大豆からの作付転換分に相当する固定払の交付申請を行わないことが必要です。

米のモデル事業（米戸別所得補償モデル事業）

自給率向上のための環境整備を図るために、米の生産数量目標に従って生産する販売農家・集落営農の皆さんに対して、主食用米の作付面積10アール当たり1万5千円を定額交付します。

米の価格が下落した場合には、追加の補てんも行います。

◆交付単価（全国一律）

| | |
|--------------------|---------------------------------------|
| 定額部分 (10アール当たり) | 1.5万円 (恒常的なコスト割れ相当分の助成) |
| 変動部分 (10アール当たり) | 22年産の販売価格が、過去3年の販売価格を下回った場合にその差額を基に算定 |

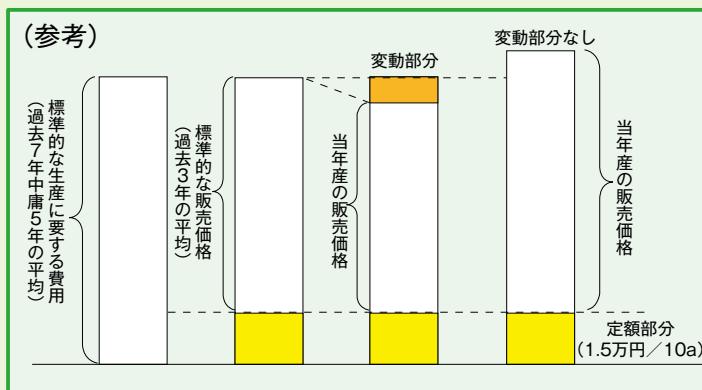
◆交付対象者

「生産数量目標」の範囲内で主食用米の生産を行った販売農家・集落営農のうち、水稲共済加入者又は21年度の出荷・販売の実績のある方

◆交付対象面積

主食用米の作付面積から、自家飯米・縁故米用に供される分として一律10アールを差し引いた面積

- 調整水田などの不作付地を有している場合は、不作付地となっている水田の地番・面積・改善計画などを市町村に提出し認定を受ける必要があります。
- 水田経営所得安定対策における収入減少影響緩和対策（ナラシ）に加入している場合は、米のモデル事業における変動部分の交付金額を控除してナラシの補てん額を算定します。



集落営農で加入することのメリット

- ① 個別経営よりも、効率的な経営が行えるので、農家1戸当たりの所得が大幅に増大します。
- ② 集落営農で水稲共済に加入すれば、水稲作付面積が10アール程度の農家も交付金が受け取れます。

加入申し込み・支払時期

| | 農家からの申請 | 国等からの通知 |
|-------------|--------------------|-------------------|
| 22年 4~6月 | 加入申請書及び作付面積確認依頼書提出 | |
| 9月 | | 作付確認証明の通知 |
| 10月 | | 交付対象面積の通知 |
| 11月 | 交付申請書提出(作付確認証明を添付) | |
| 12月 | | |
| 23年 1月 | | 交付金支払 (12月~3月) |
| 2月 | | |
| 3月 | | |

交付金を受け取るためには、加入申込書、交付申請書などの提出が必要になります。交付金は、国から農業者が指定した口座に直接支払います。

加入の申し込みは4月~6月、交付金の支払いは12月~3月になります。

〈事業についての問い合わせ先〉

担当窓口 東北農政局
戸別所得補償制度モデル対策推進室
連絡先 022-722-7337

東北農業研究センターでは、東北地域において、寒冷地に適した水稻、小麦、大豆、ナタネ、イチゴ等農作物の品種育成、高生産性の水田輪作システム、日本短角種を中心とした肉用牛の生産技術、気候温暖化、やませなどの環境変動による被害軽減と冷涼気候を活かした作物の生産管理技術、作物・牛肉の機能性成分の解析及び利用技術、省資源・環境保全型の営農技術、東北地域の活性化手法等の研究開発を行っています。

ここでは、東北農業研究センターが研究開発した「飼料イネ向けの硫安を用いた簡易な流入施肥法」並びに育成した「大豆新品種『里のほほえみ』」について紹介します。

飼料イネ向けの硫安を用いた簡易な流入施肥法

水田の水口から肥料を流し込む流入施肥は、夏場の重労働となる水稻追肥の省力化にとっても有効です。食用米向けに流入施肥専用肥料や液肥の流入施肥器等が開発されています。

一方、飼料イネでは、コスト低減のために専用肥料や専用器材を使わず、硫安等の安価な単肥を簡易な方法で追肥することが必要です。また、収穫時の地耐力を維持するため浅水で管理したほ場では、少ないかん水で均一な肥料の施用が求められています。これらの条件をふまえて、飼料イネ栽培に適した簡易な流入施肥法を開発しました。

【コンバイン収穫用粉袋を用いた流入施肥法】

この方法では、図1に示したようなコンバイン収穫用粉袋（ポリプロピレン製、標準容量30kg。以下、粉袋）を利用し、水口で少しずつ硫安を溶かしてほ場全体に肥料成分を行き渡らせます。硫安をゆっくり溶かすため、粉袋を3重にし、袋の底部のみを用水に浸けるといった工夫をしています。



図1 コンバイン収穫用粉袋を用いた施肥法

＜作業手順＞

- ①粉袋を3重にして必要量の硫安を入れ（米袋スタンドを使うと安定する）、メッシュコンテナを用いて水口に置きます。
- ②コンテナを波板で囲い、硫安と用水が混ざるように流路（2m程度）を作ります。
- ③落水状態から入水を始め、（コンテナの底に板を挟む等により）コンテナ水深を6～7cm前後に調整します。
- ④肥料が少量（2kg程度）になると溶けにくくなるので、内側の袋を取り出して洗い流すか、残量は次のほ場で使用するようにします。

こうして少しずつ硫安を溶解させることで、流入施肥器での液肥施用と同様に、濃度変動をほぼ一定に保ったまま硫安溶液を田面に供給することができます（図2）。硫安の溶解速度はコンテナの水深を変えることによって調節可能で、入水後の水深が5cm程度でも、均一な施肥が可能です。

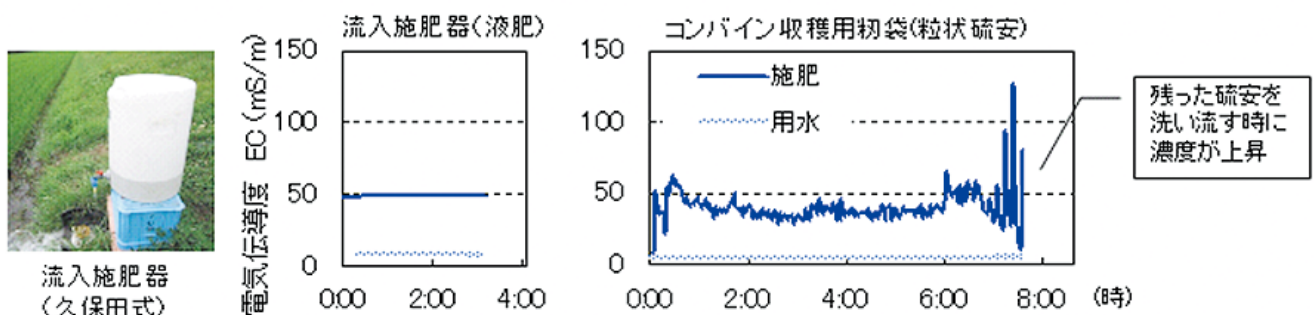


図2 流入施肥器（液肥）および粉袋（粒状硫安）による流入施肥における取水口のEC（電気伝導度）の推移
注）用水量約55m³/hで、左図は流入施肥器で硫安液肥を施用、右図は粉袋で粒状硫安を50.5kg施用した事例

ダイズモザイク病に強く、倒れにくい、大粒良質で 蛋白質含量が高い大豆新品种「里のほほえみ」

国内で消費される食用品大豆の約半分は豆腐や油揚げ類に仕向けられるため、これらの用途に向く国産大豆の安定供給が実需者から強く求められています。

現在、南東北地方では豆腐用大豆として「エンレイ」や「スズユタカ」などが作付けされています。しかし、高蛋白品種の「エンレイ」はダイズモザイクウイルスに対する抵抗性が不十分で、収量や品質の低下を招く恐れがあります。また、ダイズモザイクウイルスに強い中粒品種の「スズユタカ」は蛋白質含量が低めで湿害や連作障害などによる小粒化が問題となっています。

そこで、東北農業研究センターでは、南東北地方向けのダイズモザイク病に強く、かつ倒れにくく、大粒良質で高蛋白な大豆品種「里のほほえみ」を育成しました。

【「里のほほえみ」の特徴】

「里のほほえみ」は、ダイズモザイクウイルス及び紫斑病に強く、これらの被害粒の発生が少ないため外觀品質が良好です。また、白花で他品種と識別しやすく、百粒重が40g程度とかなり大粒です（図3）。さらに、子実の蛋白質含量が「エンレイ」並に高く（図4）、豆腐の堅さおよび食味にも問題がないことから豆腐加工に適しています。加えて、生育中に倒れにくく（写真）、最下着莢節位が高く（図5）、莢が割れにくいことからコンバイン収穫などの機械化適性が優れています。



図3 「里のほほえみ」の子実

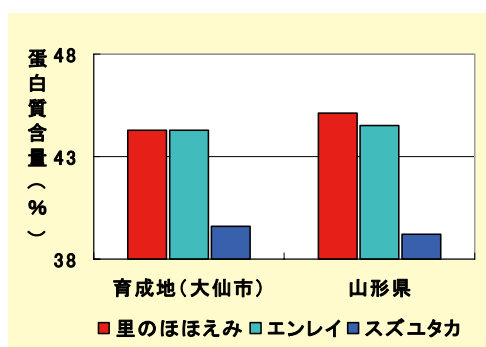


図4 「里のほほえみ」の子実中の蛋白質含量



写真 「里のほほえみ」の耐倒伏性
(手前:「エンレイ」、後方:「里のほほえみ」)

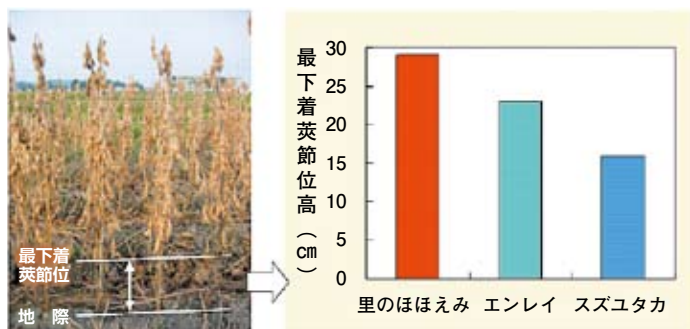


図5 「里のほほえみ」の最下着莢節位置

【「里のほほえみ」の栽培上の注意点】

「里のほほえみ」は、成熟期が「エンレイ」より1週間ほど遅い晩生種で、栽培適地は南東北地方などです。ダイズシストセンチュウには「エンレイ」と同様に弱いので、度重なる連作やセンチュウ被害が発生したことのある畑での栽培は避ける必要があります。

【「里のほほえみ」の今後への期待】

「里のほほえみ」は、山形県で奨励（認定）品種に採用され、同県の主力品種「エンレイ」の一部および「スズユタカ」に置換えて普及する予定です。

なお、「里のほほえみ」は、東北の「里」で健やかに生育して、生産者や実需者の顔に「笑み」がこぼれることを願って名付けられました。

〈技術の問い合わせ先〉
農研機構 東北農業研究センター
担当 情報広報課
電話019-643-3414、3417

■事業(務)所情報■

米沢平野農業水利事業所発

水稻・大豆の低コスト・省力化等栽培の取組

国営米沢平野二期地区は、山形県南部に位置する米沢市外1市2町にまたがる水田約8,800haの水田地帯で、水稻を中心に大豆や野菜等を組み合わせた複合経営を展開している県内有数の農業地帯です。

本事業は、前歴事業で造成された主要水利施設の老朽化や多大な維持労力の解消を図るため、併せて合理的な用水管理のための施設の改修や新設を行うものです。

米沢平野農業水利事業所では、地区内の水稻及び大豆に関する営農改善を図るため、低コスト・省力化等の栽培技術実証ほ場を設置し、見学会の開催など受益農家への普及啓発を行っています。

水稻の低コスト・省力化栽培への取組

平成21年度から受益地内の大区画ほ場で湛水直播栽培技術の実証に取り組んでいます。作業効率や収量の確認を行うとともに作業実績に基づく改善点等の検討を行っています。直播栽培は、出芽・苗立の確保が課題であることから、ほ場の高低差を少なくするとともに播種後からの落水出芽の徹底により、水口・水尻を含め出芽・苗立は極めて良好となりました。その後も適切な防除・水管理等により、順調な生育となり、収量は地区平均収量より約1割の増収となりました。



出芽状況



スーパースパウダーによる防除



登熟初期 (8/19)

大豆の高品質・多収栽培への取組

大豆の高品質安定多収を目指した栽培技術の検討を行うため、平成21年度から水田畑利用が計画的に実施されているほ場で、大豆の栽培実証に取り組んでいます。今年度は、慣行栽培による作業効率や収量の確認を行いました。大豆栽培の課題である湿害は適期の培土等により回避でき、収量は10a当たり約240kgとなりました。



生育状況 (8/19)



雑草の状況 (クサムネ)



成熟期 (10/15)

今後の取組

水稻及び大豆の栽培技術実証は平成25年度まで継続して実施する予定としており、その間、新たな技術の実証や現地見学会による受益農家への情報提供等を行うこととしています。

なお、平成22年度は用水管理の省力化のために「水稻用水管理省力装置」を水稻直播実証ほ場に設置するとともに、大豆の雑草抑制対策のために「麦類によるリビングマルチ栽培」の実証に取り組むこととしています。

畑地かんがい施設を利用した営農推進の取組

馬淵川沿岸農業水利事業の受益地域は、岩手県二戸市及び一戸町にまたがる2,382haの畑作を主体とした農業地帯です。そのうち一戸町奥中山地域は、標高400～600mのなだらかな高原で、高冷地野菜や畜産などの土地利用型農業が行われています。また、二戸市は、馬淵川左右岸の標高100～300mの丘陵で、果樹・きゅうり・たばこなどの野菜を主体とした複合経営が展開されています。

本事業では、畑地かんがいの導入により農業の生産性の向上と農業経営の安定を図ることを目的に、大志田ダムなどのかんがい施設を整備しています。

馬淵川沿岸農業水利事業所では、畑地かんがいの導入を契機とした当地域の農業を更に発展させるため、関係機関と連携し様々な取組みを進めております。

果樹の防霜対策の取組

「りんご」や「さくらんぼ」の凍霜害を防止するため、二戸市ではかんがい用水を利用した散水氷結法による防霜を行っています。散水氷結法はかんがい用水を凍らせることによる潜熱で花芽を守る手法ですが、多量の用水が必要となり、かんがい施設規模の制約等から、普及はごく一部の受益地区に留まっています。

このため、戦略的産地振興支援事業（農水省補助事業）を活用して、節水型の防霜施設及び防霜ファンを導入し、実証調査を進めながら有効な防霜手法を確立することとしております。



二戸市舌崎地区における防霜かんがい状況

レタスのミストかんがいの取組

一戸町奥中山地域のレタスは、近年の気候変動の影響による夏期の気温上昇に伴い、収量が低下傾向にあり、高標高地ほど作柄が優位になる傾向も見られてきています。

当事業所では、レタスの高温障害回避技術として散水による畑地の温度調整が可能かどうか調べるため、平成20年度よりミストかんがいをを行い、散水による温度変化やレタスへの影響に係わる調査を行っています。

今後の取組

畑地かんがい施設を利用した農業を推進するため、果樹の防霜対策の実証調査に取り組みとともに、さらに戦略的産地振興支援事業を活用した一戸町奥中山地域の農産物のブランド・イメージ確立への支援を行う予定です。



実証調査の状況

「イチジク」の販路拡大に向けて

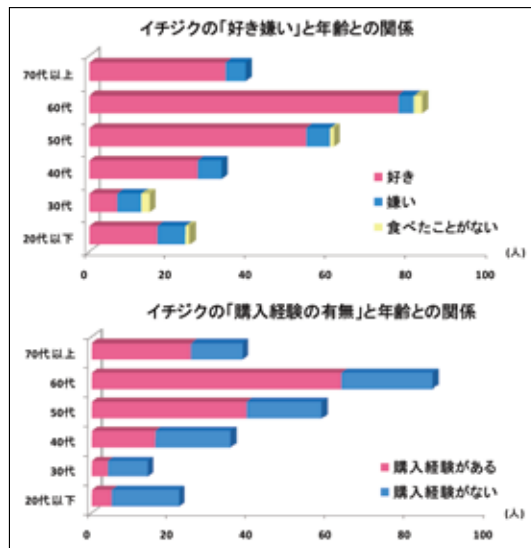
国営母畑地区（S42～H9）では、事業完了後、水稻、りんご、きゅうり、トマト等が栽培されていますが、近年、栽培管理に手間がかからないイチジク、そばの栽培に取り組む農家の方が増えてきています。

国営母畑地区営農推進連絡会では、農地の有効活用を図る上で期待されているイチジクの販路拡大を図るため、イチジクの消費動向についてアンケート調査を行いましたので、その概要を紹介します。

この調査は、イチジクの消費動向の把握を目的として、平成21年10月3日（土）～4日（日）、福島県玉川村の道の駅「たまかわ」にある生産物直売所「こぶしの里」で、来場者の性別、年齢の他、購入する量や食べ方等についてアンケート調査を行い、2日間で270人から回答をいただくことができました。

アンケート調査結果に基づいて、イチジクの消費動向に関する分析を行った結果、「年齢」がイチジクの消費動向に最も影響する要因であることがわかりました。

今後、イチジクの更なる販路拡大に向けて、①40代以下の年齢層をターゲットとしたケーキ屋等との連携による加工品開発、②PR イベントの開催等について、営農推進連絡会で検討していくこととしています。



玉川村生産物直売所「こぶしの里」



アンケート調査実施状況

東北農政局土地改良事業地区営農推進功労者表彰を再開します

本表彰は、土地改良事業を契機に生産対策等に積極的に取り組み、安定した営農の定着が進んでいる事例に対して表彰を行い、その内容・成果を広く普及することにより、東北農政局管内の土地改良事業地区における農業経営の安定化の促進及び事業の円滑な推進を目的として、平成5年より実施しているものです。

今年度は、表彰を始めて17年目を迎えたことから受賞者へのアンケート調査を行い表彰の効果を確認するとともに、審査体制や審査内容についても見直しを行ったため、表彰をお休みしました。平成22年度から本表彰を再開しますので、関係機関の皆様の御協力をお願いいたします。

編集後記

「もえび」へのご意見等、お待ちしております。また、「もえび」は東北農政局ホームページでもご覧になれます。<http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/sigenka/moebi/index.html>

「もえび」は春先に萌えでる草花のように、明日に向け力強く、農業（農家）が発展することを目指して命名しました。今後とも整備された基盤を有効に活用した営農の早期定着に向け、最近の農業情勢や東北管内の営農情報等を掲載し、東北農業が力強く萌え出る草花のように生き活きと明日を目指すためのお手伝いをしていきたいと思っております。